

前回の流域委員会における 主な指摘事項とその対応

令和元年6月10日

国土交通省 中部地方整備局

木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所

No	意見内容	対応
1	候補地における遊水地の貯留量、越流堤幅等の諸元値を整理すること。概算事業費に見込む付帯工事等の内容を明示すること。	本資料(P.2)でご説明いたします。
2	選定した候補地において、遊水地ができたことにより被害が無くなると地域住民に誤解を与えないよう、超過洪水に対する説明も行うこと。	超過洪水が発生した際の浸水想定を示すなどの工夫をすることで丁寧な説明を行って参ります。
3	今回選定されていない候補地についても、自然の遊水機能を有する治水安全度上有効な土地であることを関係者に周知するとともに、次期整備計画や基本方針に向けた遊水地の候補地に関する検討を引き続き行うこと。	整備計画に反映させ、引き続き検討して参ります。
4	県管理区間と国管理区間で整備計画が異なるため、両者の整合がとれるよう、関係機関と十分に協議すること。	引き続き、関係機関としっかり連携して参ります。
5	調節量を算出する際の考え方(前回流域委員会資料2:長良川遊水地の候補地についてP.11)について、地域の住民に説明する際には一般にもわかりやすい表現とすること。	委員のご意見を参考にし、丁寧かつわかりやすい説明をして参ります。なお、説明のイメージを本資料(P.3)でお示します。
6	事業実施に際しては地域の意見をしっかりと踏まえて進めること。	地域の方からの意見をしっかりと聴取して参ります。

- 候補地における遊水地の貯留量、越流堤幅等の諸元を整理すること。
- 概算事業費に見込む付帯工事等の内容を明示すること。

※調節量は、基本方針流量における値

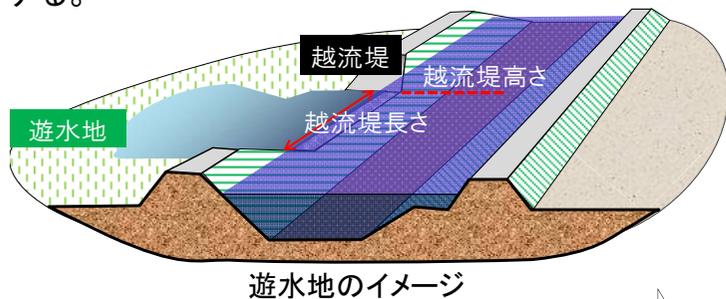
		候補地					
		(下流側)					(上流側)
		下白金	保戸島南	溝口	小瀬	池尻	横越
用地取得方法		地役権設定					用地買収
単独で整備した場合の投資効率等	調節量 (m3/s)	27	51	137	65	68	183
	遊水地の諸元	容量:約13万m3 面積:約12ha 越流堤幅:240m	容量:約37万m3 面積:約19ha 越流堤幅:280m	容量:約84万m3 面積:約40ha 越流堤幅:300m	容量:約68万m3 面積:約26ha 越流堤幅:300m	容量:約55万m3 面積:約21ha 越流堤幅:300m	容量:約144万m3 面積:約19ha 越流堤幅:300m
	概算事業費 (億円)	30	56	110	83	30	108
	概算事業費に見込む付帯工事・補償費等の主な内容	農業用水切り回し	グラウンド復旧費 事業所補償費	既設道路切り回し	事業所補償費 農業用水切り回し	埋蔵文化財調査	用地取得費 農業用水切り回し
	m3/sあたり事業費	1.11	1.10	0.80	1.28	0.44	0.59
	順位	5	4	3	6	1	2

(1) 遊水地について

遊水地は洪水が一定の水位以上になった場合に、その一部を遊水地内にため込み、下流に流れる量を減らす役割（洪水調節機能）を持つ。長良川においては平成16年10月に発生した戦後最大規模の洪水を安全に流下させるために、その流量が最も大きくなるタイミングで効果的に洪水調節（ピークカット）ができるように整備を行う。

(2) 遊水地の設計（諸元の最適化の考え方）

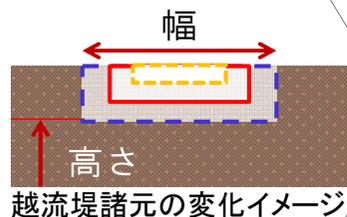
遊水地には、遊水地内に洪水を流入させるために、河川に面する堤防を一部低くしている越流堤があり、その幅により洪水を取り込む量、高さにより洪水を取り込む頻度が決まり、幅と高さそれぞれをピークカットする上で最適となるように設計（最適化）する。



遊水地のイメージ

計算条件

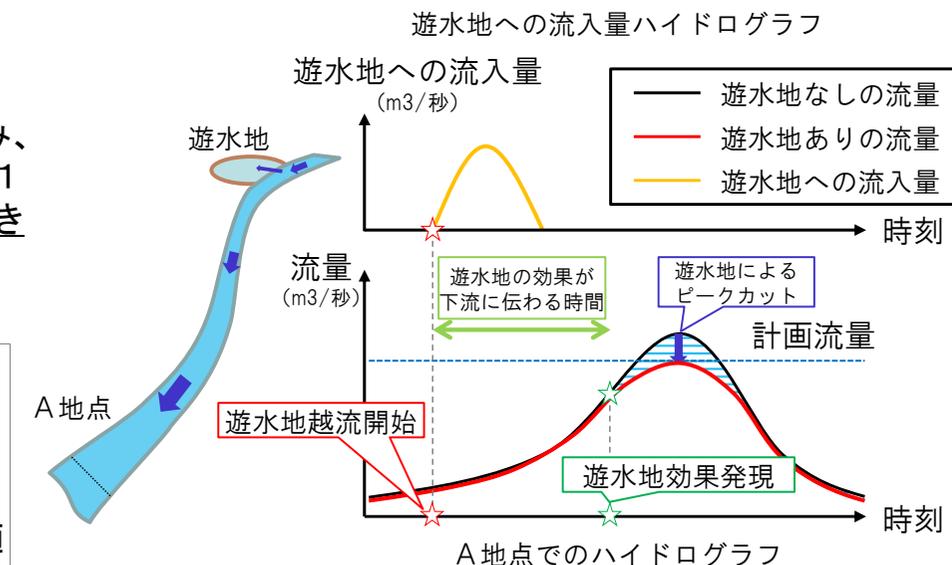
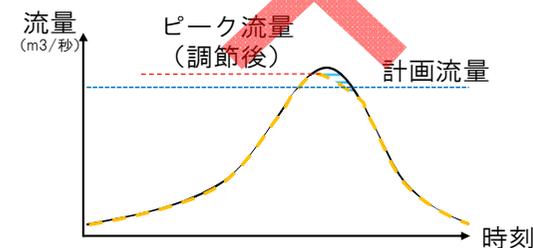
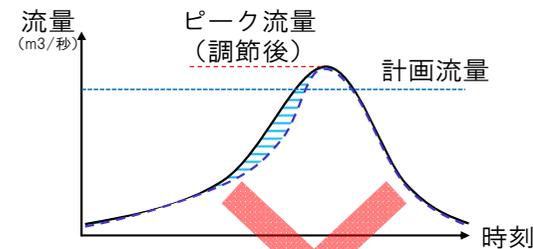
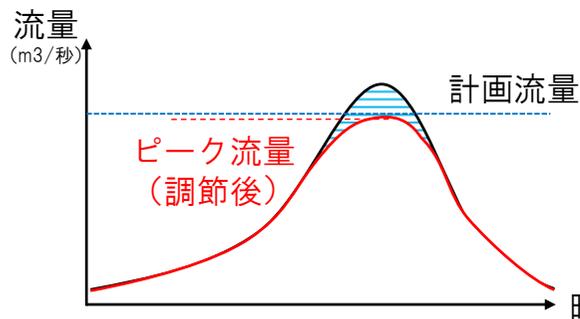
越流堤の諸元（高さ・幅）を変化させ、それぞれの場合の洪水調節効果を計算



越流堤諸元の変化イメージ

計算結果（イメージ）

遊水地への流量



(3) 複数の遊水地を組み合わせた最適化

6つの候補地の1箇所だけではどこに整備したとしても目標とする洪水調節量を達成できないため、複数の遊水地を組み合わせて整備する必要がある。いくつかの候補地を組み合わせた上で、(2)に示すような手法で、上流に位置する候補地の諸元から順に最適化・決定していく。